

授業の詳細がわかる『授業デザイン案』（小学6年生社会）

～「人」を教材に、日本とつながりの深い国々とのかかわりあいを全員参加で学ぶ実践～

1 単元名

世界の中の日本「日本とつながりの深い国々」

(教育出版「小学社会 6」)

2 単元の指導目標

- (1) 日本と経済、文化、歴史やスポーツなどを通してつながりが深い国の人々の生活について考え、日本とは違う多様な文化や習慣を知り、尊重し合うことが大切であることを理解する。地図帳や地球儀、統計や年表などの基礎的資料を通して、適切な情報にあたりたりまとめたりする技能を身につけるようにする。
- (2) 日本と関係が深い国の生活の特色、日本との相互の関連や意味を多角的に捉える力、社会課題を把握し、その解決に向けて自分たちがどう社会とかかわるかを考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論を深めたりする力を養う。
- (3) 日本と関係の深い国の人々の生活やグローバル社会における日本の役割を考え、主体的に課題解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かしよりよい社会を築こうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本人として平和を願い、世界の国々の人々とともに生きること(共生)の大切さについて自覚を養う。さらに、自分が調べた国やベトナムなど日本とのかかわりの深い国の学習をもとに、異文化を互いに尊重し合う大切さに気づくとともに、互いのよさを認め、これからもかかわり合おうとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国の人々の生活の様子について、日本の文化や習慣との違いの観点で、地図帳や地球儀、資料で調べて必要な情報を集め、読み取って理解している。(3)ア(ウ) ・調べたことを図表やポスター、パンフレットなどにまとめられる。日本とつながりの深い国の人々の生活は多様であること、スポーツや文化、国際協力などを通して他国と交流し、異なる文化や考え方を尊重し合うことが大切であることを理解している。 <p>(3)ア (ア) (イ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の人々の生活の様子などに着目してその特色に問いをもち、日本の文化や習慣との違いを考え、表現している。 ・世界の国々の人々の暮らしや文化を比較したり関連づけたりと、まとめたりして、国際交流の果たす役割や、文化や習慣の違いを尊重しあう大切さを考え、表現している。 <p>(3)イ (ア) (イ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べた国の人々の生活について仮説をもち、学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・自分が調べた国やベトナムなどの日本とのかかわりの深い国の学習をもとに、異文化を互いに尊重し合う大切さに気づくとともに、互いのよさを認め、これからもかかわり合おうと考えている。【国際理解】

4 本単元の POINT

日本とかかわりの深い国は多くある。その国とは一方的でなく相互に支え合いかわり合っているとともに、それぞれの国の生活や文化は多様であり、尊重し合うことが大切であることを学んでいく。

興味関心の違いや身近な国は、事例国以外にもある。児童の主体性を重視しながらも、歴史、文化、スポーツ、経済、暮らしなど様々な視点を持ち、相違点を比べたり視野を広げたりできるように単元を構成する。

教科書の事例国をもとに学習を進め、様々な視点や立場から、日本とのかかわりを考えていくことが大切である。ただし、教科書の事例国の調べ学習となり、身近に捉えられないこともあるため、図書室や図書館から関係書籍を借りて調べる、人物へのインタビューといった体験も重視したい。そこで、日本から近く、戦争で日本が進出したというマイナスな一面があるにも関わらず、現在は、親日家が多く様々な面で交友や相互の支援がある「ベトナム」を発展的に取り上げることで、つながりの深い国々がほかにも多くあることに気づかせたい。

ICT を活用し、学びを積み重ねたり、対話的・協働的な活動も取り入れたりすることで、「学び方」からも、「かかわり」や「学び合い」、「互いの尊重」などの重要性に気づかせる。

5 単元（全8時間扱い）

（1）本時（第7時）までの学習記録

第1時 歴史学習を振り返り、日本と外国とはたくさんのかかわりがあることに気づき、「外国とのかかわり」や「世界の中の日本」について課題を持ち、関心を高める。

第2時 資料をもとに、日本とかかわりの深い国の衣食住、文化、歴史、スポーツの繋がり等の観点から、調べたい国や学習計画を考える。

第3時 日本とかかわりの深い国の衣食住、文化、歴史、スポーツの繋がり等の観点から、調べた国と日本とのかかわりや相違点を理解する（グループ）。

第4時 日本とかかわりの深い国の衣食住、文化、歴史、スポーツの繋がり等の観点から、調べた国と日本とのかかわりや相違点を理解する（個人でさらに詳しく調べる）。

第5時 調べたことを表やスライドなどに整理し、日本と比べ、相違点について考える（個人で整理・見直し）。

第6時 発表を通して、様々な国と日本のつながりや相違点について考える。

（2）本時について

●本時

第7時

●目標

日本とベトナムの相違点やかかわりについて資料をもとに調べ、第8時に迎えるベトナムとかかわりの深い日本人のゲストティーチャーに聞きたいことを考える。

●本時の学習計画

つながりの深い国の一つ「ベトナム」について、「つながり」を詳しく調べ、調べたことをもとに日本との比較をしながら、互いの文化を尊重する視点で、考えを深める。

●本時の評価規準

これまでの学習や本時の学びをもとに、日本とつながりの深い国の生活や様子、人とかかわりについて主体的に考えようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

(3) 本時後の学習計画


第8時 国際協力にかかわる人の話や対話から、日本と外国とのかかわりのあり方やこれからを考える。

6 本時 (全8時間中の7時間目)

(1) 本時の目標

日本とベトナムの相違点やかかわりについて資料をもとに調べ、第8時に迎えるベトナムとかかわりのある日本人のゲストティーチャーに聞きたいことを考える。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動 T:教師 C:子ども	○指導上の留意点 ★評価	ミライシールド活用 POINT
<p>導入 (5分)</p>	<p>1 前時のグループ交流を振り返る。 ・日本と外国とのかかわり合いについて全体で振り返り、考えを発表し合う。</p> <p>C:どの国も日本とつながっていた。 C:日本との違いがあるけど、おもしろい。</p> <p>2 資料をもとに、本時の課題をつかむ。 ・グラフ資料からベトナムに注目し、本時の課題をつかむ。 C:衣類・エビ・コーヒーなど身近なものにベトナム産がある。 C:これらの品目で、日本がベトナムを頼っていることがわかった。 C:日本にもたくさんのベトナム人がいて、働いている人がいることも知った。</p>	<p>○事実だけでなく日本との違いを考え、これまでの自分の生活・体験や知識・既習事項と比べて感想を伝え合うように促す。</p> <p>○ムーブノートのコメントや拍手機能を使って共有されているシートを大型モニターで教師が示し、全体共有をスムーズに進める。</p> <p>○例としてお好み焼きの原材料の輸入割合の資料、依存額が高い品目のグラフ資料を用意して見せる。</p>	<p>○共有したカード </p> <div data-bbox="1045 817 1476 1064"> <p>サウジアラビア</p> <p>気付き・考え</p> <p>写真をいれる</p> </div> <div data-bbox="1045 1108 1476 1355"> <p>ブラジル</p> <p>気付き・考え</p> <p>写真をいれる</p> </div> <div data-bbox="1045 1400 1476 1646"> <p>中国</p> <p>気付き・考え</p> <p>写真をいれる</p> </div> <div data-bbox="1045 1691 1476 1937"> <p>アメリカ</p> <p>気付き・考え</p> <p>写真をいれる</p> </div>

【めあて】日本とベトナムのつながりや相違点について考え、GT（ゲストティーチャー）に質問したいことを考えよう。

展開
(30分)

3 写真資料（カード）や動画資料（モニター投影）から、日本とベトナムを比べ相違点を考える。

・ベトナムの町中の写真（資料）から、日本との相違点を見つける。環境条件や歴史的な要因等、共通している原因や要因、その背景にも焦点を置く。

ムーブノートのスタンプ集計と文章で交流する。（個人→全体）

C:電車はあるが、踏切が手動で驚いた。

C:バイクの数が多く、3人乗りもいる。

T:人口や面積、言葉、文化などを比べてみよう。

C:お米が主食である点は同じ、でもお米の麺やライスペーパーなどもあっておもしろい。

T:ベトナムはどんなところ？

・資料やWebサイトから、気づいたことやわかったこと、もっと知りたいことを共有する。

4 疑問や調べたことをもとに、質問したいことを考える。

・ムーブノートで、疑問や質問を考え、各班で広場に入り、分類・整理、追加し、全体で共有する。

T:ベトナムの人は、日本をどう思っているのだろうか？

T:ベトナムの人とのつながりが

○必要に応じて、調べたことはノートに箇条書きし、質問を考える際の参考にする。

○ムーブノートの「スタンプ集計機能」を使い、写真のどこに注目が集まっているか、視覚化することで交流を生む。

○途中や後半に、個人の意見を全体で共有し、思考の広がりや深まりを促す。

少数の意見にも注目したりするなど全員参加を目指す。

○ムーブノートの「広場1～6」を班ごとに割り当て、分類しながら質問したりことを整理し、広げたり深めたりしていく。

★【主体的に学習に取り組む態度】

これまでの学習や本時の学びをもとに、日本とつながりの深い国の生活や様子、人とのかかわ

○共有したカード



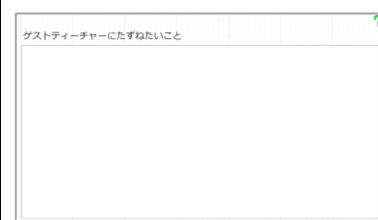
スタンプの色分け例

赤：日本と同じ点

青：日本と違う点

黄：発見・気づき

○共有したカード



	わかったうえで、交流する時に大切なことは？	りについて主体的に考えようとしている。(発)(ノ)	
まとめ (10分)	<p>5 自分の今日の学び(①)、学び方(②)を振り返り、ノートに書く。</p> <p>C:実際にGTに質問して、もっと調べたい。</p> <p>C:グループで話し合い、たくさん考えられた。</p>	<p>○時間を確保し、学びと向き合う。</p> <p>視点をもち、振り返り、学習評価につなげる。</p>	

(3) 授業評価の観点(事後検討会の議題例)

- ・社会や本時の学習の中での、ムーブノートの活用方法が子どもの気づきを促し、資料の比較や深読み、意見交流の活性化につながったか。
- ・子どもにとって身近な例で興味をわかせる、比較の視点を持たせて、気づきや疑問を導き出せたか。
- ・二国間だけでなく、これまでに学んだ世界の国々での共通性や相違性を総合して考えるなど、意欲を広げていたか。
- ・本時や前時までで活用した、「コメント」や「ポイント」、「マーカー」集計の活用方法やアイデアはどうだったか？